

月田秀子の昨日、今日、明日・・・

CD製作に明け暮れた夏だった。

その幕開けは、7月から新しく加わったギタリストの蓮見昭夫氏のCD「unself-conscious」を聴いた時から始まった。蓮見氏によどむことのないギターのアルペジオに誘われるように竹花加奈子嬢のチェロが深くふくよかなメロディーを奏で始める。思い出と共に散ってゆく枯れ葉を踏みしめながら一人歩く老いた私の姿が見えた。サウダーデを抱えながら消えてゆくその後姿さえもはっきり見えた。今年の年末のコンサートに、是非、この人たちのユニットを加えたい。そんな思いがむくむく膨らんでいった。

蓮見氏にその思いを伝えると、快く受け入れてくれた。竹花嬢がチェロを抱え私の家を訪れたのが6月16日。蓮見氏がアレンジした「汽車は八時に出る」、「大河の一滴」、「難船」を歌ってみた。ヴァイオリンを入れてのファドは、今までジャンジャンタイプのCD「ファド」を始め、コンサートでもやったことがあるが、ひょっとしたら私の声、わたしの歌うファドにはチェロの方が合っているのかもしれない。私の夢はさらにふくらみ、新しいアルバムCD製作へと心は高まっていった。

録音を終えたある日、蓮見氏が「月田さん、アマリアさんの

誕生日って、7月23日だったかな、何かテレビでそんなことを言ってるのを聞いたんですけど、録音を決めたのそのころじゃなかったですかね。何か、目に見えない力を感じるんだな。」と言った時、その日は又、黒田清さんが亡くなった日でもあることに気がついた。しかも、今回その黒田氏と大学同期の元ジャーナリストT氏が、「自主制作」の意気を感じてくださり、CD制作の資金援助を申し出てくれたのだ。そのお蔭で、私にとって一番大きな不安要因が取り除かれることになった。

録音し終えたCDを聴きながら、次から次へと起きる様々な困難を乗り越えてこられたのは、私自身の力ではなく、そんな私を見守り、陰で支えてくださる人たちがいればこそなのだと思いつく思った。新たな試練がやってきつつある予感の中で。

その試練は、9月秋田でのライブを終え帰宅したときに、やってきた。その件に関しては、また別の機会にお話することがあるかもしれない。何とか越えてしまえば忘れてしまうことなのかもしれない。

どんな状況になっても、声が出る限り、そして歌うことへの情熱が失せない限り、私の歌を聴いてくださる人のいる限り、歌いつづけてゆくのだ。そう自分に言い聞かせながら……。今、その試練に立ち向かっている月田の今日です。



石橋幸さんこと、タンコさんのこと

夏の疲れが出たのか、抱えている「試練」に押しつぶされそうになっていたせいか、ふらつく身体で、石橋幸さん（みんなはタンコと呼んでいた）のコンサートの客演のためのリハーサルに出かけた。9月半ばの陽射しは容赦なく照りつけ、それでも、新しいミュージシャン達との出会いへの期待を胸に、指定された西荻窪のスタジオへと向かった。

名古屋のT氏の紹介で、新宿ゴールデン街にある彼女の店「ガルガンチュア」で、初めてお会いして以来、一年ぶりに見る彼女の姿は、本人かと思ふばかりにやせ細っていた。お店を訪ねた時はかなり酔酩していたせいもあるかも知れないが、地下にあるスタジオの階段の下の片隅にちょこんと座っている彼女が、「タンコ」さんだと確信するまでかなりの時間が必要だった。

その日は、パーカッションが欠けた、キーボード、ヴァイオリン、チューバ、そしてリーダーのギターリスト金井太郎氏のバックでの初めてのリハーサル。彼らにとっても初めてのファド、にも拘わらず、皆それぞれに、私の唄を盛り上げてくれる。雑用に忙殺され、人に会うこともなく、朝から晩までパソコンの前に座り通して、滞り、萎縮していた体中の血管を血が廻ってゆく。「らしさ」は吹き飛び、飛び跳ね、うねり、ファドが大股で自由に歩き始めるのを私は感じた。ああ、生きている！私は歌い手であることを思い出した。

それから、タンコさんの歌う生の声を私は初めて聴いた。それはまさにCDで聴いている声、歌いっぷりだ。語るように、いたわるように、そしてこの世の不条理を嘆き叫ぶように、それは歌っているというより、その歌の中に生きているといった方が当たっている。それでいて、音程もリズムもしっかりしている。

打ち上げの時、「大人の女の歌って感じで、いいわねえー」とタンコさんが言うので、私は、「いや、あなたのように、力強く歌いたいな」と言うので、「そうとしか歌えないのよね。月田さんみたいな声出ないんだもん」とタンコさん。「私も、そうとしか歌えないんです。タンコさんみたいな声出ない」と私。

その後、西荻窪にある「音や金時」でのタンコさんのライブに出かけた。大きなコンサート前のせいか、客は10名に満たなかった。「先月はお客様一人だったのよ」タンコさんのその声に悲痛感はなかったが、開き直りの陰に一抹のさびしさが顔を覗かせていた。他人事ではない。同行したN氏は、「生きていることを思い出させてくれた。お店がもっと宣伝しなければいけない。こんなに素晴らしい歌、聴きたい人が沢山いるはずだ。」と、タンコさんの世界に、かなりはまった様子。マイナーであるということは、身内にしか愛されないということなのだ。「愛してくれる人がいるだけでも、ありがたいと思え、欲張り者め」拳骨が飛んできそうだが旧ソヴィエト、ハバロフスク市、ウランウデ市、イルクーツク市で彼女はコンサートを開催、現地ではかなりの評価を得ているタンコさんの歌。スターリン独裁政権下、迫害され、追放された人たちの魂の記憶は、彼女の声を聴いて甦る。

今回のコンサートのチラシの裏の詩人の故白井愛さんの文章がかなり頭にこびりついてはなれない。ここに引用させていたたく。

＜芸術と呼ばれる「魂の王国」では、敗者こそが王様なのだ。だって、魂なんて敗者だけのもの。魂を必要としているのは敗者だけ。敗者は、魂だけで立っている、ひっそりと、お月さまみたいに。敗者は、魂だけで燃えている、あかあかと、お日さまみたいに。けれども、この栄光は、墓場の上にはしか訪れない。モーツァルトはひとりぼっちで共同墓地へ行ったのだ、一匹の犬と幽霊たちにつきそわれてーレオ・フェレがサタンに感謝して歌ったように。＞

＜追記＞ 石橋幸コンサート「僕の呼ぶ声」は、昨日（10月3日）無事幕を下ろした。月田はファドを4曲歌わせていただきました。楽屋でタンコさんが「何でこんなしんどいことしてるのだろう。泣いちゃったよ。」それでも、彼女の声はリハーサルを終えても衰えない。楽屋でビールやらワインやら弁当をほおぼる私たちと対照的に何も口にせず、じっと身じろぎもせず一点を見つめていたタンコさんの姿が目には焼きついていく。集客がかんばしくなかったこと、客のノリが悪かったこと、いくつもの難題を抱えながら、それでも、歌いつづけるタンコさんの姿が自分に重なって、眠れぬ一夜を過ごした月田でありました。

月田秀子「ロシア風」歌謡曲に挑戦!

にわか付き人レポート by きうびい

「今度これ歌うことになったのよ……どうしよう」と、月田姫が自宅オフィスにて一枚のCDをプレーヤーに挿入。聴こえてきたのは、素朴なおじさまの声。「ロシア民謡っぽいじゃん。」ときうびいが言うと、月田姫「あら、よくわかるわねえ」。

その歌の題名は「イプロペイスカヤ」。ロシア語でヨーロッパという意味らしい。歌っているのは「野風増」の作曲で知られる山本寛之氏。山本氏のコンサートで、ファド1曲と、この「イプロペイスカヤ」を歌うことが決定し、月田姫ドキドキ。

「大丈夫かな。歌えるかなあ……どうしよう!」「大丈夫・大丈夫! うーん、ちょっと聴いてみたいねえ」ときうびい。

以前月田姫は、NHK BSの番組で「氷雪の海」という弦哲也氏がファドをイメージして作ったという曲をそれはそれは妖艶な月田姫で披露した。今度はロシア風か! こちらも聴き逃さないぞ……「じゃあ、付き人で来て!」と、姫からのご依頼。はい、喜んで!!

ということで、今回は2005年7月7日、四谷区民ホールでのコンサートでのにわか付き人レポートです。

午後4時。四谷区民ホール入口で待ち合わせ。遠くに少し大きめのバッグに濃いサングラスの、一見「家出風美女」がいるなどと思ったらその家出風美女がこちらにむかって元気よく手を振るのでそれが月田姫であることに気づく。あれ、ギタリストは? 「今日はこちらのバンドの方が」ああ、そうか。一般入口から迷路のような裏道を案内され、非常にコンパクトな楽屋に着く。

実はこのコンサートには特別ゲストが出演するのだ。正直言っても半分それにつられてにわか付き人を申し出たのであるが……それはあの松山恵子さん。毎年8月と12月に必ずフランス人形のようないでたちでテレビに登場する、「だから言ったじゃないの」の大歌手である。楽屋のドアには「松山恵子様・月田秀子様・朝川ひろ子様」と書いてあったので確かに三名用なのだろうが、あまりにかわいらしすぎるサイズの楽屋のため、まだ誰も到着していないのに隅っこに遠慮がちに荷物を置く。

午後4時半リハーサル。いつもに比べて月田姫やや控えめ? しかしだんだんいつもの調子になり(どんな調子だ)きうびい安堵。ロシア風はなかなか、うん、歌謡曲だな、悪くないぞといった雰囲気。ファドに関してはバックの演奏が違うせいか、はじめ完全にルンパになっていたが、回数を重ねるうち別の曲には聴こえなくなった。がんばれ秀子。

午後5時。食事でもするか、と二人楽屋に入る。同楽屋の朝川ひろ子さんがメイク中のため、別にいじけていたわけではないのだが楽屋があるのに出てわざわざロビーで、会場整理の人々から少しだけ離れてお弁当を食べる。窓ガラス越しに広大な新宿御苑を見下ろし「大きいねえ」「きれいねえ」と、よくわからない緊張感を一生懸命ほぐす月田姫ときうびい。そこに突然、浜崎あゆみ?! にはしては若干お姉さんな、テンガロンハットとウエスタンブーツとデニムのショートパンツをはいた「芸能人!」な女性が颯爽と二人の目の前を通った。「松山さん?」「まさかー」……そのとき、月田姫がぼそっと「葛城ユキだ」。

葛城ユキといえば、きうびいの小学生の頃「ボヘミアン!!」とシャウトしていたロック歌手。なぜだか月田姫、「葛城ユキだわ、絶対そうよ。葛城ユキよ」と、やたらこだわっている。お弁当を食べ終わるころ、「あたし、あの人のライブに一回行ったことあるのよね」と姫ついにそのこだわりの理由を告白。「へええ、なんで?」ときうびいが聞くと「なんでもか忘れた」と、これまた姫らしい発言。美人は得だ。

葛城さんのリハーサルを聴いて、その迫力に圧倒される。なにかピリピリくるものがある。静かに耳を傾けていた月田姫であったが、なんとなくエネルギーが注入されたような感じを受けた。

午後6時。いよいよ月田姫、メイク&ドレス着用。家出風美女もステージとなると皆様ご存知のように妖艶に変貌します。黒のシックなドレスにシルバーのハイヒール。緊張のためか、や

や落ち着かない姫様……と、鞆からおもむろにA4用紙とペンを取り出した。邪魔にならないように眺めていると、なんと「イプロペイスカヤ」の歌詞のおさらいをしていた! 真剣なその横顔は、まるで住所を間違えないように筆で年賀状を書いている人のようであったが、ほどなくして歌の世界に入っていく表情に変わっていった。イプロペイスカヤへ行ったのだろう。月田秀子の出番は8時過ぎ。松山恵子さんはまだ来ない。

午後7時50分。舞台袖へ。「次ですので……」と案内され様子をうかがっていたが、出番が、あれれ?? 来ない。どうやら突然進行が変更になってしまい、月田秀子のあとに出演するはずの葛城ユキさんが先に紹介されてしまった!!! 出番を待っていた姫の顔に「ドキドキ」と「あれ?」という文字が書いてあったため、とりあえず近くにあった椅子に座らせる。



秀子姫、やや緊張気味。

なんだか不安そうなので、どうしたんだろうと見守っていると「脚が寒い」……あ、脚が寒いのか、でもブランケットももって来ていないし、デニムのジャケットしかない。「これでいい?」ときくと、「有難う。脚の周りに巻いてあげた。そのまま出るなよ」。

待つこと数分、葛城ユキさんの迫力満点ボーカルががががが響く。「なんか影響されそうだな」といつつ、いい顔になって来た月田秀子、立ちあがった。すでに脚に巻いていたジャケットのことはもちろん忘れてる。「脚かして! 脚!」きうびいが小声で叫ぶと

「あ」と可憐な声で脚の巻物をおほどかせになり、いよいよステージへ!!

♪タンタララ タンタララ…… イントロが始まり、月田秀子が「イプロペイスカヤ」を歌った。いやー。これがまた、一気に会場内シベリア鉄道霧の中!! 良かったんですよ! 本当に。葛城さんのあとだった影響なのか、サビの歌いっぷりはかなりドラマチックになっていましたが、見事に月田秀子の歌にしてみました。日本語も明瞭で美しく、さすがだなあといまさらながら見直したきうびい。ほっとして楽屋に戻ると、松山恵子さんが! フランス人形ではありませんでしたが、小柄ながらレモンイエローのドレスで、背筋がびっと伸びたオーラのあるお方。その後早めに失礼したきうびいでしたが、月田姫は深夜まで葛城さんたちと新宿で打ち上げを楽しんだ模様。

帰り道気づいたのですが、今まで何度か秀子姫のにわか付き人をしたけれど、酒を買いに走りに行かなかったのは今回がはじめてだったぞ!! 姫快挙(?) もうしらふでもOK?!

以上、きうびい今回のにわか付き人レポートを終わります。月田さん、とにかく、お疲れ様でした! 次回は「ブルースを歌って……」なんて依頼されてくれないかな?

ニューアルバム販売開始! 定価3000円 「夜のファド FADO NOCTURNO」



お申し込み方法: 郵便振替にて、送料200円を添えてお申し込みください。(月田秀子ファド倶楽部会員の方は送料サービスとさせていただきます。)

加入者名: 月田秀子ファド倶楽部

口座番号: 00990-6-18440

<月田秀子のスケジュール>

10月26日 (水)	京都・四条河原町「巴里野郎」 ステージ：①20：00 ②21：00 ③22：00	予約・問合せ：tel / 075-361-3535 チャージ：3,500円 (入れ替えなし)
27日 (木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」 ステージ：20：00から3回 (入れ替えなし)	予約・問合せ：tel / 06-6212-2870 チャージ：2,800円
28日 (金)	大阪・南方「三裕の館」 ステージ：①20：00 ②21：00	予約・問合せ：tel / 06-6304-1745 料金：5,000円 (ワイン・オードブル付)
29日 (土)	大阪・堺「能楽会館」 開場：13：30 / 開演：14：00	予約・問合せ：tel / 072-233-8188 料金：当日3,500円 / 前売予約3,000円
30日 (日)	神戸・三宮「サロン・ド・あいり」 開場：16：00 / 開演：19：00	予約・問合せ：tel / 078-241-1898 料金：5,000円 (料理・ドリンク付)
11月5日 (土)	長野・小諸「小諸ユースホステル」 開場：18：00 / 開演：19：00 ♪ファンからのコメント： 浅間山の麓にある少し古いタイプのYHですがペアレントの方がとても感じ良く気持ちよく過ごせるYHです。遠く若かった日を思い出して旅行がてらあの懐かしい空間で晩秋の夜空のもと、月田ファドを楽しまれては如何でしょうか・・・宿泊施設でのライブの楽しみはファドの余韻をかき消すように慌てて帰宅しないで済みますし何と言ってもライブの後で月田さんとの会話が出るのが魅力のひとつでしょう。一夜越しに月田さんと共に過ごせるという時間の共有の長さが朝迄続くと言う実感がとても充実感を与えてくれます。それに昔懐かしい木製の二段ベッド等と年を重ねると減りにYHに泊まる経験は出来ないのでから……ね。 YHには気恥ずかしくて泊れないと言う方には少し離れてますが、ランプの温泉で有名な◆秘湯の宿・高峰温泉(日本秘湯を守る会会員)をお勧めします。秘湯ファンには人気がある温泉ですので早めに予約をしなければ簡単に泊れませんのでご注意。(移動には車が必要です)車で行かれると近くのワイン工場での工場見学ワインの試飲、地元の美味しい信州蕎麦も楽しめます。(月田おすすめ・小諸「丁子庵」)	予約・問合せ：tel / 0267-23-5732 チケット前売：3,500円 (1ドリンク付)
13日 (日)	東京・千石「三百人劇場」 “夜のファド” 発売記念一月田秀子ファドコンサート2005— 開場：15：30 / 開演：16：00	予約・問合せ：tel / 03-3944-5451 チケット：5,500円 (全席指定)
21日 (月)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 開場：18：00 ライブ：20：30～ (約1時間)	予約・問合せ：tel / 03-5738-0125 料金：6,000円 (ディナー・ライブチャージ込み)
22日 (火)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約 「NOITE DE SAUDADE Vol.27」 開場：18：00 ①20：30 ②21：30 ③22：30	予約・問合せ：tel / 03-5276-2432 ライブチャージ：2,500円 (入れ替えなし)
23日 (水)	京都・四条河原町「巴里野郎」 ステージ：①20：00 ②21：00 ③22：00	予約・問合せ：tel / 075-361-3535 チャージ：3,500円 (入れ替えなし)
24日 (木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」 ステージ：20：00から3回 (入れ替えなし)	予約・問合せ：tel / 06-6212-2870 チャージ：2,800円
25日 (金)	大阪・南方「三裕の館」 ステージ：①20：00 ②21：00	予約・問合せ：tel / 06-6304-1745 料金：5,000円 (ワイン・オードブル付)
26日 (土)	福井「サライ」 *要予約 会費：6,000円 (パーティー込)	予約・問合せ：tel / 0776-27-1204
27日 (日)	富山「立山国際ホテル—立山山麓チャペルコンサート」 みゃあらく座・真酒亭 tel / 076-481-1111 (立山国際ホテル) 開場：17：40 / 開演：18：00 交流会：20：30より 要予約 コンサートのみ3,500円 (当日4,000円) 特別宿泊 (朝食つき) 7,000円 *いずれもホテルのマイクロバスでの送迎利用可 (富山駅北口 15：30発・ホテルからの送バスは20：00発) ♪ファンからのコメント： 11月の立山は雪も降っているはずですし黒部山系を向こうに控えた山々や澄んだ夜空の下の硝子張りのチャペルでのFADOは今迄に無い最高のライブになりそうな予感がします。出来れば一泊して秋の立山・黒部の星々の下で月田さんのFADOが聴きたいものです……このホテルでこの宿泊料金！行かぬ手はない。	予約・問合せ：tel / 076-441-0399 料金：ディナーセット (温泉入浴付) 7,000円
28日 (月)	金沢「金沢市文化ホール」 金沢文芸会館開館記念五木寛之講演会	
12月4日 (日)	山梨・大月「アダージッシモ」 開場：17：30 / 開演：18：00	予約・問合せ：tel / 0554-23-2323 料金：6,000円 (グラスワイン・ボルトガル料理付き)
5日 (月)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 開場：18：00 / ライブ：20：30～ (約1時間)	予約・問合せ：tel / 03-5738-0125 料金：6,000円 (ディナー・ライブチャージ込み)
6日 (火)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約	
7日 (水)	「NOITE DE SAUDADE Vol.28」 開場：18：00 ①20：30 ②21：30 ③22：30	予約・問合せ：tel / 03-5276-2432 ライブチャージ：2,500円 (入れ替えなし)
9日 (金)	北海道・室蘭「中嶋神社・蓬莱殿」	予約・問合せ：tel / 090-8279-5776 (三原)
19日 (月)	大阪「ザ・フェニックスホール」 “夜のファド” 発売記念一月田秀子ファドコンサート2005— 開場：18：30 / 開演：19：00	予約・問合せ：0570-05-5062 (サンケイチケットセンター) チケット：5,500円 (全席指定)

*12月は、関西での定例ライブはありません。関西のファンの皆様は、「月田秀子ファドコンサート2005」へお越しくださいませう、お待ち申し上げます。

cartas

- アンケートの公演の感想を今読んでいますが……みなさんいっぱい書いてくださって、月田さんへのお礼の言葉がいっぱいです。アンケートの文を読みながら、今日の月田さんの歌声を思い出し、また涙が溢れそうです。メンバーの前田さんが買出しに行かれた「サッポロビール黒ラベル」が効いたのか、満席の会場の熱気が届いたのか……すばらしいライブでした。とつとつと語られるトークもみなさんよかったとの感想でした。来年もFADOで月田さんをお呼びして下さいという感想も何枚もありました。素晴らしいものは誰の心にも素晴らしいと響くのですね。ホンモノは不滅です。月田さんありがとうございました。この出会いを大切にしたいと思います。ギターさんへの賞賛の感想もたくさんありました。私はすっかり夜の気分で、いざ片付けて外へ出てみたら、まだ日差しがまぶしくてびっくりしました。心はすっかりリスボンの夜更けのつもりでした。(^^またの出会いを楽しみにしております。(和泉女性100人委員会・谷上)
- 土風さんを偲ぶ会でお会いした年の11月以来、三裕の館にもご無沙汰で3年半振りの懐かしい月田さんのお声と姿でした。親の介護も丸4年経ちまして少し悲しい経過を辿り最近手が空きました。そんな時に近くでのライブを会報で知りまして即電話予約を致しました。馴染んだ三裕の館とは少し異質の

雰囲気戸惑いましたが、胸の底から揺さぶられるような歌声に涙が溢れました。音楽の力はすごいですね。横浜で一人暮らしの娘が羨ましがることでしょう。これからは出掛けられるようになります。東京で娘と伺いますね。ありがとうございました。hidekoさん素敵でした。初めての夫がメロメロでした。CDずっと聞いています。お体 大切に下さって下さいませ。(大阪・S.K子)

- 数日前、東京への出張でクタクタに疲れていたとき、友人がCDを届けてくれました。月田秀子さんの「ギターに寄せて」です。大変失礼ながら存じ上げない名前、でもきっと私が気に入るだろうと心やさしいプレゼントです。曲の流れは、心の隅までしみわたります。静かな夜、少し音量を上げて聴きますのでなおさらです。夜遅く仕事をしながらですが、今回は手を休めて美味しい加賀の梅酒をのみながら、なしかしら涙がポロリ。ハードな仕事の中で友人知人に支えられていることに感謝と幸せの涙です。夜空が大好きです。母娘で満天の星を眺めたときは最高でした。星空を眺めるだけでも一瞬のやすらぎですが、月田さんの曲がその中に加わりました。素敵なおあなたの曲に出合えたことに感謝します。お体を大切にご活躍の程。(福岡・N. F子)

fados canções

ALFAMA

José Carlos Ary dos Santos
Alain Oulman

Quando Lisboa anoitece
Como um veleiro sem velas
Alfama toda parece
Uma casa sem janelas
Aonde o povo arrefece

É numa água furtada
No espaço roubado à mágoa
Que Alfama fica fechada
Em quatro paredes de água
Quatro paredes de pranto
Quatro muros de ansiedade
Que à noite fazem o canto
Que se acende na cidade
Fechada em seu desencanto
Alfama cheira a saudade

Alfama não cheira a fado
Cheira o povo, a solidão
Cheira a silêncio magoado
Sabe a tristeza com pão
Alfama não cheira a fado
Mas não tem outra canção

アルファマ

日本語詩：カウド・ヴェルデ

帆船が帆をたたむかのように
リシュボアの夕暮れが訪れると
アルファマは まるごと
窓のない ひとつの家に見える
そこに住む人の寒々とした思いを抱え

屋根裏部屋が
悲しみから逃れる空間
アルファマは閉ざされたまま
四つの涙の壁に
四つの嘆きの壁は
四つの苦悩の外壁は
夜に歌を創り出し
歌は街の輝きとなる
消え果てた幻想に閉ざされたまま
アルファマはサウダーデの匂いを放つ

アルファマには ファドの匂いはない
あるのは 住む人の匂い 孤独の匂い
暗澹たる沈黙の匂い
日々の糧には悲哀の味がする
アルファマにはファドの匂いはない
さりとして 別の歌もありはしない

<編集後記>

タンコさんの言葉じゃないけど、「ピンボーは苦じゃないけど、不便ではあります。」便利さの上にあぐらをかくよりも、不便さに鍛えられる方がましかなと、思い直しながら、ひとりコンサートのチラシの発送準備。「月田さん、相変わらずだね」という黒田清さんの声が聞こえたような気がした。チケットの申し込み状況すこぶる悪し。CD3000枚30ケースが部屋を占拠中。いずれも皆様のお申し込みお待ちしております。(月田)

月田秀子ファド倶楽部ホームページ
<http://www.fado.jp/>

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第48号
- 2005年10月1日発行 (季刊：年4回発行)
- 編集・発行 「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒108-0075 東京都港区港南1-8-27 日新ビル1406号
- TEL&FAX 03-3458-9806